

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23380016

研究課題名(和文)わが国における文化的景観の多様性保全管理方策に関する研究

研究課題名(英文)Study on management policy of the diversity of cultural landscape in our country

研究代表者

下村 彰男 (SHIMOMURA, Akio)

東京大学・農学生命科学研究科・教授

研究者番号：20187488

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,200,000円、(間接経費) 2,460,000円

研究成果の概要(和文)：地形と土地利用により文化的景観の関するパターン分類を行い、基本類型として12の区分を得た。そして、各地の個性的な文化的景観を保全管理する仕組みの検討を行うために、大分県由布院においてケーススタディ調査を実施した。来訪者(観光客)の文化的景観の保全管理に対する協力意志や支払意志額、および来訪者の地域の資源性や保全に対する認識・理解について調査・分析を行い、実効性の高い保全管理方策について検討を行った。また、これまで検討を進めてきた、受益者支援型の資源保全管理方策の全国的な動向や、個性的な地域景観の抽出方策とを合わせて考察し、文化的景観の多様性保全方策について考察した。

研究成果の概要(英文)：We examined the pattern classification of the cultural landscape by the relation between topography and land use, and we got 12 patterns as basic structure. And we carried out a case study survey in Oita Yufuin to examine the structure which conserve and manage an individual cultural landscape of each place. We analyzed the cooperation will and WTP(willingness to pay) on the recognition or the understanding for the local resources characteristics and its conservation through the questionnaire survey to visitors, and we examined the effective resource management system. In addition, we examined trends of the whole country of the landscape management policy of the beneficiary support type. And we examined the extraction method of the local landscape too.

研究分野：農学

科研費の分科・細目：園芸学・造園学

キーワード：文化的景観 環境政策 景観管理 支払意志額

## 1. 研究開始当初の背景

「美しい国づくり政策大綱」「景観法」、そして「文化財保護法の改正」などに続く、近年の行政の動きにも見られるように、各地域の個性的な文化的景観への関心が高まってきた。各地の文化的景観が国内に多様性に存在していること、こうした「ランドスケープ・ダイバシティ」こそが、わが国の重要な景観的特性と考えられる。

そして各地の個性的な文化的景観は、まちづくりに際して住民の拠り所として帰属意識を高めるとともに、また観光客等来訪者に対しても重要な観光資源となり、「観光まちづくり」の重要な資源として注目されるようになってきた。

しかしながら、従来からの生業や生活様式が大きく変容して来たことや、建築物、構造物の建設・整備技術の進展に伴い、景観の画一化が進んでいる。景観の多様性を支えてきた国土面積のおよそ7割を占める二次的な自然環境(農地等をも含む)が荒廃あるいは失われつつあり、各地の生活文化と一体となった個性的な地域景観の保全そして形成が重要な課題となっている。

一方、環境や景観管理の新たな財源として、森林環境税や環境保全協力金など、受益者支援型の(受益者支援による)景観管理費用を求める動きが各地で広がりつつある。つまり、従来どおりの、公的機関による補助や支援、そして、産業を通しての管理や事業者による支援だけではなく、都市域の人々や地域への来訪者など、地域の景観や環境の受益者が支援する景観管理費用、つまり、地域を訪れアメニティを享受する来訪者による協力資金が関心を集めている

## 2. 研究の目的

筆者らの研究グループは、地域景観の個性把握や保全管理について調査研究を実施する過程で、各地の景観構造をパターン化して提示することで、地域における文化的景観の

個性認識(地域での共有)が容易になるとともに、来訪者に対して保全管理協力金の目的や用途を慎重に検討し提示することによって、多くの来訪者から協力を得ることが可能になり、地域の景観管理費用を支援する大きな力になり得ることを強く認識するようになった。そこで本研究では大きく以下の2点を研究目的とする。

(1) 各地域における文化的景観の個性(特徴)を抽出・提示する手法を開発する。

地域における文化的景観の個性に関する知見を収集整理するとともに、景観構造パターンの類型化を検討し、それらから文化的景観の個性(特徴)を抽出・提示する手法をモデル的に開発する。

(2) 地域景観の保全管理費用に関して来訪者からの協力を得るための適切な方策について検討する。

環境税、環境協力金、会員・寄付制度など、各地で展開されつつある、域外者との協働による景観保全管理の新たな動きを取り上げ、各事例について、その考え方や資金の流れの詳細、問題点等に関する論議を調査し、タイプ等を整理して、現在の動きの全体像を把握する。また地域景観の保全管理のための財源として期待される景観管理協力金に対する支払意志やその金額は、その用途つまり協力金をどのような目的でどのような費目に使用するかによって差異が生ずると考えられる。そこでケーススタディ調査として、保全方針と費用の用途、それらによって生ずる費用の多寡に関するシナリオを想定してアンケート調査を実施し、コンジョイント分析によって感度を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) 地域における文化的景観の個性(特徴)の抽出・提示手法に関する検討

地域における文化的景観の個性(景観の特徴)把握に関する既往の知見を収集し、特徴抽出に際しての着目点を整理する。

文化庁の「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」において抽出された重要地域の「複合景観（52事例）」を対象として、景観構造パターンを検討する。

地形図（1/2,5000、管内図等）、空中写真、景観写真を収集するとともに、景観を形成し支えてきた地域の歴史、生活文化、産業等に関する情報も収集し、各地域の文化的景観の構造パターンを類型化する。

農山村における文化的景観を構成する代表的要素として、集落（家屋）、水田、畑地、草地、樹林、森林を取り上げ、これら要素の相互関係（構造）を抽出し、地形との関係を整理しつつパターン分類する。

#### （2）文化的景観の保安全管理費用確保のあり方検討

まずは、各地で実施され始めている自然環境を保全し、管理する新たな動き（仕組み）に関して情報収集し、資金面での流れについてタイプ分類し、域外者との協働による自然環境の新たな保安全管理の仕組みの、現時点での全体像を把握する。調査方法としては、文献、資料調査を行い、Web上やマスコミでの報道情報によって収集できる情報を中心に、大枠を整理し先進的事例に関しては、現地調査を実施する。

合わせてケーススタディ調査を通して、文化的景観の個性の抽出・提示手法の検討、および受益者支援型の景観保安全管理資金のあり方検討を実施する。

ケーススタディ調査地としては、大分県由布院温泉をとりあげ、来訪者に対して、景観管理の必要性を十分に伝えたいうえで保安全管理協力に対する意志と支払い意志額に関する対面アンケート調査を実施し、コンジョイント分析によってシナリオ毎の感度を検討する。保安全管理協力金の使途に関して、下記のポイントに留意しつつ、協力金の徴収方法や使い方（活用方針）についても調査する。

#### 4．研究成果

##### （1）地域における文化的景観の個性（特徴）の抽出・提示手法に関する検討

地域の文化的景観の個性（特徴）を整理・抽出する枠組みとして、地形および農地の関係区分から、景観パターンの基本類型を抽出した。縦軸の農地は水田と畑地の配分にもとづく区分で、水田中心から、畑地中心に至るまで、両者の配分状況により区分する軸である。そして横軸は地形の傾斜状況にもとづく区分で、平地から、緩傾斜、傾斜地に至るまで、傾斜の程度に応じて区分する軸である。この枠組みによって、対象地とした特徴的な文化的景観を有する52事例を区分し、基本類型として下図に示す12タイプの景観パターンを抽出した。

この基本類型は文化的景観の地域個性を抽出する基本的なフレームとして位置づけることができる。各地の地域個性は、この景観パターンの基本類型を把握した上で、土地利用としての集落、森林、草地との位置関係、そして集落形状（住居の集合形態）、道路・街路区画、災害対応装置（防災林や堤防等）の形状や位置、を把握することで整理抽出することができると思われる。

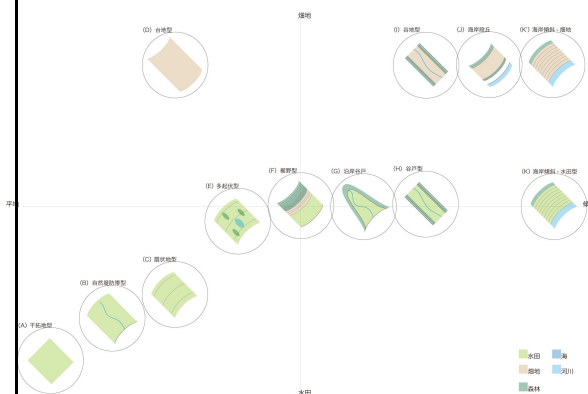


図 - 1：景観パターンの基本類型

##### （2）文化的景観の保安全管理費用確保のあり方検討

保安全管理に対する協力・支援金の動向

近年、地域の環境や資源の保安全管理を目的とした域外者や来訪者からの寄付や協力な

どの動きが各地で展開されるようになって来た。これら税制度、寄附、協力金等に関する特徴的な50事例を収集し、それらの資金の集め方（入口）と使い方（出口）の流れを整理した。

資金の集め方（徴収）については、受益関係がはっきりしているもの（受益関係）とそれ以外（一般協力）に分類され、前者では税、直接支払、商品上乘せの3区分、後者では商品購入型、基金型の2区分に分類された。一方、使い方（使途）については、直接事業に使うものと間接的な支援に使うものに区分された。目的が明確なものは直接事業が行われ、目的が「環境保全」などの抽象的なものでは間接的な支援を行うという傾向がみられた。

#### ケーススタディ調査

大分県由布院温泉をケーススタディ調査対象地として、来訪者（有効回答数：367人）に対してアンケート調査を実施し、地域景観を保全管理する財源（基金）に対する支払意志額として下記の推定図を得た（賛成者率：81.7%，中央値：763円）。

そして、その使途として多くの賛同を得たものは、順に、「農地・草地の保全や田園風景の回復のための費用」249、「煩雑な看板・電柱の除去やまちかどの修景のための費用」175、「ゴミ・尿尿等の処理のための費用」119、「滞在・滞留をより豊かにするた

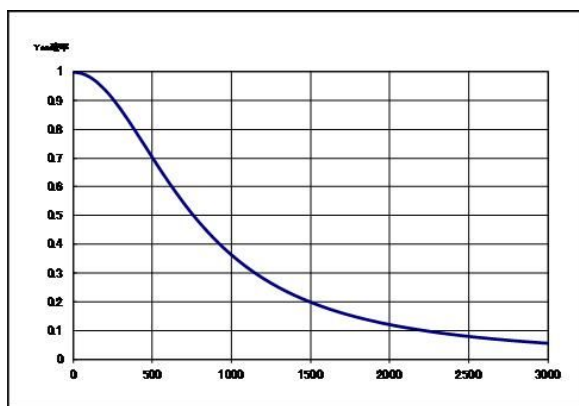


図 - 2：景観保全管理に対する支払意志額曲線（由布院温泉）

めの施設整備のための費用」115であった。逆に最も少ない選択肢は、「調査・計画・ルール等の作成のための費用」35であり、地域景観の保全管理のための計画やルールづくりの重要性に関する理解が得られていないことが課題として抽出された。

また、支払意志額の多寡に影響する項目としては、来訪回数、居住地、そして地域景観に対する問題認識および保全管理の必要性に対する認識が抽出された。地域に頻度高く来訪し、地域に対する理解が深まると、保全管理費用の支援に対しても協力的になるとの結果が得られた。

そして、「地域性」に対する支払意志額調査に関しては、レストランでの食事機会を想定し、地位異素材の活用や地域の個性的な眺めに対する支払意志額を調査したところ図 - 3 に示す結果が得られた。料理（食事）に地域素材を用いることで、通常の約1.25倍の価格設定が、また地域の個性的な風景を見ながらの食事機会を設定することで、約1.3倍の価格設定が可能となるとの結果となった。

地域性に対する理解や関心が高まっており、来訪者に対して、地域個性を明確に情報提供するとともに、滞留や飲食、購買などの活動に関して、地産地消など地域内での協働をはかることを通しても、地域資源の保全管理への貢献が期待される結果となった。

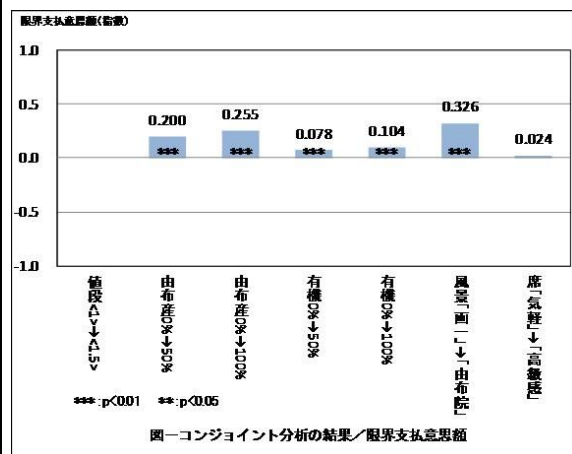


図 - 3：地域性に対する支払意志額

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

横関隆登, 小野良平, 伊藤弘, 下村彰男,  
新潟県十日町市松之山地区に見る棚田景観  
地の景観構造に関する研究, ランドスケープ  
研究 76(5), 583-586, 2013 (査読有)

喜多明, 下村彰男, 新聞および雑誌記事へ  
の掲載写真による京都北山杉の森林像の変  
遷把握に関する研究, ランドスケープ研究  
75(5), 533-536, 2012 (査読有)

渡辺綱男, 中山隆治, 横関隆登, 下村彰男,  
釧路湿原自然再生事業における多様な主体  
の参加による持続的展開に関する研究,  
環境情報科学 26, 113-118, 2012 (査読有)

小野良平, 「ランドスケープ遺産インベン  
トリーづくり」の目指すところ, 遺跡学研究  
No.9, 254-257, 2012 (査読無)

〔学会発表〕(計4件)

上記雑誌論文の発表に伴い、4論文について  
は口頭発表も実施した。

〔図書〕(計2件)

小野良平, 生活の基盤となる景観の再生,  
「復興の風景像 ランドスケープの再生を  
通じた復興支援のためのコンセプトブック」,  
日本造園学会編, 102-105, マルモ出版, 2012

下村彰男, エコツーリズムが守るもの - 持  
続的な資源管理の仕組み, 「エコツーリズム  
を学ぶ人のために」, 真板昭夫・石森秀三・  
海津ゆりえ編, 134-140, 世界思想社, 2011

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

下村彰男 (SHIMOMURA, Akio)  
東京大学・大学院農学生命科学研究科・  
教授  
研究者番号: 20187488

(2)研究分担者

(3)連携研究者

小野良平 (ONO, Ryohei)  
東京大学・大学院農学生命科学研究科・  
准教授  
研究者番号: 40272439

伊藤弘 (ITO, Hiromu)  
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・  
准教授  
研究者番号: 60345189

山本清龍 (YAMAMOTO, Kioyutatsu)  
岩手大学・農学部・准教授  
研究者番号: 50323473